

【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立学校白山高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		○ 地域を愛する若者を育成し、地域の活性化に貢献する学校
(2)	育みたい 児童生徒像	○ 社会生活を営むうえで必要な基礎学力と規範意識を身につけている。 ○ 地域行事やボランティア活動に進んで取り組み、地域から信頼され、地域の活性化に貢献している。
	ありたい 教職員像	○ 生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、主体的に提案し実践できる教職員集団 ○ 地域の声を生かした学校づくりに向けて、主体的、積極的に地域と触れ合う教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p>〈生徒〉 学校生活アンケートでは、8割を超える生徒が学校生活に満足しており、学び直しの授業による基礎学力の向上や資格・免許の取得支援に期待する声がある。</p> <p>〈保護者〉 保護者アンケートでは、保護者は生徒の学力向上や就職をはじめとする進路保障に期待しており、豊かな心の教育を望んでいる。</p> <p>〈地域〉 学校運営協議会委員へのアンケートでは、地域は生活指導に力を入れるとともに進学・就職等の進路指導の充実、社会性の育成を望んでいる。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p>〈家庭〉 学校生活、進路、学習活動に関する情報の提供</p> <p>〈中学校〉 多様な生徒の受入れ、入学者選抜に関する情報提供、高校入学後の生徒の状況に関する情報提供</p> <p>〈地域社会〉 生徒の社会性の向上や進学・就職等の進路指導 規範意識の醸成</p>	<p>〈家庭〉 基本的な生活習慣の確立に向けた指導やあいさつや礼儀・規律などルールやマナーについての指導、学校の指導方針への理解と協力</p> <p>〈中学校〉 情報の共有と基礎的な学力の定着、基本的な生活習慣の確立</p> <p>〈地域社会〉 インターンシップへの理解・協力・受入や本校との連携強化 学校教育活動への参画・支援</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等	<p>○新型コロナウイルス拡散防止の取組のため今年度は実施できなかったが、これまで取り組んできた地域と協働して行う教育活動は継続していただきたい。</p> <p>・キャリア教育の充実と部活動活性化の両立を図るための長期インターンシップ（学校周辺の受入事業所の開拓）</p> <p>・オリジナル開発商品「白山フランク」のアピールなど、今ある学校資源の有効活用</p> <p>○生徒の自尊感情やコミュニケーション力を高める取組をこれからも推進してほしい。</p> <p>今年度インターンシップや地域ボランティアの代わりに急遽取り組んだ、生徒による地域プロデュース「白山高校が地域を応援します！」の各取り組みは、生徒に地域を愛するという気持ちを育み、地域の方々の好意的な反応で自尊感情を高めることができた。コロナ禍が終わってもこのような取組を継続していただきたい。</p> <p>○時間外労働時間の縮減については改善されてきたが、年間休暇取得日数が増加できるよう、業務の精選や意識改革を行い、職場全体で働き方について検討してほしい。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	人口減少に伴い、地元からの入学者が減少し、遠方から通学する生徒が増加する傾向にある。また、義務教育段階での学習内容が定着していない生徒や特別な支援の必要な生徒が在籍している。基礎学力とともにコミュニケーション能力や規範意識を育む必要がある。 生徒には自尊感情を育むために、課題克服の達成感を伴う教育活動が求められている。
	学校運営等	小規模校であるため教職員数が少ないことから、生徒に豊かな学びを保障するために外部教育力を活用する必要がある。 様々な課題のある家庭が少なくないことから、学校との連携・協力の体制づくりを進める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ 確かな学力と規範意識の育成 学習指導・生活指導・進路指導の充実を図り、個々の生徒の状況に応じて、社会生活を営む上で必要な学力、生命を大切にす心や思いやりの心などの倫理観、規範意識、社会性を育成するとともに、地域との交流を通じて自尊感情やコミュニケーション力を育む。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域とともにある学校づくりの推進 地域連携に基づいたこれまでのキャリア教育、連携型中高一貫教育の取組成果を踏まえ、生徒・教職員がより主体的、積極的に地域と触れ合うことにより、地域からの声を生かした学校づくりに努める。 ○ 生徒のための教職員組織づくりの推進 生徒の多様なニーズにきめ細かく対応し、主体的に提案し実践できる教職員の組織づくりを推進するとともに、校内研修等を活用した人材育成や業務改善に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力と規範意識の育成	<p>(1) 基礎学力の定着・向上を図るために、「ユニバーサルデザインの授業」を取り入れて授業を実施する。 [活動指標:「ユニバーサルデザインの授業」の啓発と教員アンケートの実施] [成果指標:「ユニバーサルデザインの授業」の認知度90%、基礎力診断テストの学習到達度ゾーンを1つ以上向上させる生徒の割合30%]</p> <p>(2) 卒業生を招いた講演会を実施したり、実際の働く現場や上級学校を訪問したりする機会を設けることで、働くことや上級学校で学ぶことを具体的に想像し、みずからの主体的な進路選択と高校での学習の充実に役立てることができるよう支援する。 [活動指標:実施回数 年間2回以上]</p>	<p>「ユニバーサルデザインの授業」の啓発 1 学期 2 回 2 学期 2 回 3 学期 1 回(アンケート予定) 学習到達度ゾーン向上 1 年生:29% 2 年生:43%</p>	企業と上級学校の見

	<p>[成果指標：事後アンケートによる肯定的な評価 80%以上]</p> <p>(3) 生徒の人権意識の向上に努める。</p> <p>[活動指標：人権LHRの実施回数 各学年各学期 1回以上・年間4回以上、人権講演会 年間2回以上]</p> <p>[成果指標：人権意識が向上したと実感した生徒の割合 70%以上]</p> <p>(4) 生徒の規範意識・社会性を育成するために、 毎朝の登校指導、計画をたて下校指導 (JR乗車指導)・身だしなみの指導・ あいさつ運動に取り組む</p> <p>[活動指標：登校指導実施率100% 下校指導(JR添乗指導)実施率100% あいさつ運動実施率 100%]</p> <p>[成果指標：身だしなみ指導件数 前年度比5%減]</p> <p>(5) 自他を大切に、命を大切にすることを育むために、講演・講義・模擬実習等を実施する。(状況に応じて実施する。または形態を変えて実施する。)</p> <p>[活動指標：講演会・講義・模擬実習等を、各学年、年3回以上実施]</p> <p>[成果指標：自他や命を大切にすることが向上した生徒の割合 98%以上]</p>	<p>学会は12月に実施できた。卒業生を招く講演会(先輩と語る会)は予定していた時期にコロナウィルスの影響があり、昨年度に引き続いて実施できず。</p> <p>人権LHR:各学年1各学期に1回ずつ実施した。</p> <p>人権講演会:2学期1回、3学期1回(3月に実施予定)、年間2回実施(予定)した。</p> <p>人権意識が向上したと実感した生徒の割合は98%であった。</p> <p>コロナウィルス感染拡大の影響から、昨年度よりJR添乗指導を乗車指導に切り替えて実施することができた</p> <p>身だしなみ指導件数前年度比16%減</p> <p>[活動指標:保健講話 3学年1回、1学年1回 SC 講話1, 3学年年1回 SC 全校集会 年1回]</p> <p>「成果指標:自他や命を大切にすることが向上した生徒の割合 97% 全校集会はアンケート未実施」</p>
--	--	--

改善課題

- 全校集会と同等のマナー(乗車マナー・身だしなみなど)の意識向上のための機会の実施の模索
- 感染症対策を心がけた実施形態の検討が課題である。

(2) 学校運営等

<p>地域とともにある学校づくりの推進</p>	<p>(1) 3年生の長期インターンシップを通じて、働く意義、社会人としての態度、コミュニケーション力を高める。 [活動指標：事業所訪問2回以上] [成果指標：事業所アンケートにおいて、良好70%以上]</p> <p>(2) 地域連携にもとづいたキャリア教育推進の一環として、地域に関わる事業所や関係機関と連携し、キャリア教育を推進し、進路指導の充実・改善に取り組む。 [活動指標：外部人材の招聘または地域の事業所や関係機関との連携による教育活動 年間8件] [成果指標：学校斡旋による就職内定率95%以上]</p> <p>(3) 課題を抱えた生徒一人ひとりの就職(進学)に対応するため、きめ細やかな生徒保護者面談を行い、進路実現につなげる。 [活動指標：生徒との面談10回以上、保護者との面談2回以上] [成果指標：生徒の進路希望実現100%]</p> <p>(4) 来年度のインターンシップの充実(2学年) [活動指標：例年お世話になっている事業所との連携を保つための連絡件数20事業所以上] [成果指標：事業所と実際に連携できた件数5件以上]</p> <p>(5) 地域美化のために、毎朝生徒会役員及び生徒会顧問で地域のゴミ拾いを実施する。 [活動指標：ゴミ拾い実施率100%] [成果指標：ゴミ拾い実施率100%]</p>	<p>事業所訪問 1学期1回 2学期0回 3学期1回</p> <p>○該当の教育活動は、1月末までに7件。3月に1件を予定。</p> <p>学校斡旋による就職内定者62名。内定率100% ○生徒面談、保護者面談随時実施。</p> <p>0件(新型コロナウイルスの影響)</p> <p>生徒登校時100%実施 (生徒主体で取り組むことができた)</p>
-------------------------	---	--

<p>生徒のための 教職員組織づ くりの推進</p>	<p>(6) 情報提供による信頼の構築 [成果指標：地域や報道機関への資料提供 年5回以上]</p> <p>(1) 全教職員による進路指導がよりきめ細かく行えるよう情報提供（就職・進学）に努める。 [活動指標：7月以降、教員への求人状況、応募状況、内定状況、進学状況を毎月1回以上発信する] [成果指標：希望進路実現率95%以上]</p> <p>(2) 教職員の人材育成を図るため、校内研修の実施に取り組む。 [活動指標：校内研修の実施回数 年間5回以上] [成果指標：校内研修における職員満足度80%以上]</p> <p>(3) 困難な状況にある生徒を支援するために情報共有を行い、必要に応じて関係機関と共働できる、教職員の組織づくりを実施する。 [活動指標：特別支援教育推進委員会、ケース会議、コンサルテーション等を、年間あわせて15回以上実施] [成果指標：委員会、ケース会議で取り組んだ課題の解決した割合 50%以上]</p>	<p>年5回以上クリア (主な取組) 名松線活動、2年総探、人権活動等での情報提供 ・川口小、高田短大コラボ ・ポスター完成披露 ・三重テラス、松菱、津センターパレス各展示会 ・成果発表会 ・コミュニティニュース ○9月までは月1回程度の共有フォルダーへの情報発信。</p> <p>5回実施(4/16 浜松学芸高校、9/8 ICT研修①、9/14 ICT研修②、9/27 教務:評価について、10/20 人権研修会)</p> <p>職員満足度:65.6% (ただし、大いに満足のみの数値。どちらかといえば満足を含むと90%以上)</p> <p>[活動指標:特別支援教育推進委員会3回、SCとSSWとのコンサルテーション3回(電話を含む)、成績会議への参加2回、ケース会議1回 カウンセラー通信発行4回(うち classroom 利用3回)、合計13回実施] [成果指標:解決した割合33% 継続中]</p>	
------------------------------------	---	---	--

	<p>(4) カウンセリング日程の保護者への連絡を行い、活用を図る。 [活動指標：保護者への日程連絡 年間3回以上] [成果指標：保護者のカウンセリング利用 年間10件以上]</p> <p>(5) 地域から信頼される学校づくりと教育活動を目指す。 [成果指標：「学校信頼向上委員会」を年3回開催]</p> <p>(6) 教職員の働きやすい環境づくりを進めるために、次の①～③により、総勤務時間の縮減に取り組む。</p> <p>① 定時退校日の設定（月1回） ② 部活動休養日の設定（週1回） ③ 会議スマートルールの適用</p> <p>[成果指標：①定時退校日に定時退校できた教職員の割合 85%以上 ②部活動休養日に休養できた部活動の割合 85%以上 ③60分以内に終了できた会議の割合 70%以上 ④1人あたりの月平均時間外労働時間 前年度比10%減 ⑤1人あたりの年間休暇取得日数 令和元年度比1日増 ⑥月80時間を超える時間外労働者 0%]</p>	<p>[活動指標：保護者への日程連絡3回]「成果指標：保護者のカウンセリング利用 5件（電話を含む）」</p> <p>4回</p> <p>①クリア ②クリア ③68% ④2.2時間増 ⑤0.7日増 ⑥クリア</p>	
--	--	--	--

改善課題

- 情報発信に関して、どの時期にどのようなやり方でどのような情報が共有されていれば、先生方にとってより有意義なのか、さらに考えたい。
- 必要とされる校内研修を行うことで、参加率や満足度の向上を期待したい。
- ケース会議等における課題解決の定義が難しいため、成果指標を再考する必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊感情やコミュニケーション力を高める取組を推進する。 ○キャリア教育の充実と部活動活性化の両立を図るため、長期インターンシップにおける学校周辺の受入事業所の開拓が必要である。 ○探究教育活動として地域プロデュースに取り組み生徒の課題解決の力を高める。 ○学校事務の精選や意識改革を行い、職場全体で働き方について検討する。 ○地域と共に学校の存在意義について考えて、その教育使命を果たす。 ○今年度まで地域の方と学校の教育活動について「学校運営協議会」と「学校活性化協議会」の2つの会議で考えてきたが、次年度より「学校運営協議会」に一本化する。
----------------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○授業改善やユニバーサルデザインの授業づくり進め、卒業までに生徒が社会人として必要な資質・能力を身に付けられるように基礎学力の伸長及び定着を目指す。○部活動や地域ボランティアを活性化して、基本的な生活習慣や粘り強く取り組む態度を確立させて、生徒の規範意識や社会性を育成する。
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">○生徒のコミュニケーション能力や規範意識を育むために、地域プロデュース活動や長期インターンシップなどを充実させて、積極的に地域の教育力を活用するようにする。○地域に対して、積極的に生徒の活動や成果を情報発信するとともに、地域に貢献する生徒の育成を推進し、生徒の自尊感情や自己有用を高める。